

地域での高度実践拡大を目指した大学院看護学修士のカリキュラム開発に関する研究

1. 研究の対象

2016 年 8 月から 2018 年 3 月まで

調査 1 :

研究協力者として、①茨城県立医療大学卒業生・修了生（学部卒業生・大学院修了生・助産専攻科卒業生・専任教員課程修了生・認定看護師課程修了生）、②看護学実習施設に勤務している看護師 とする。

調査 2:

研究協力者としては、実践家（CNS 他）、管理者、モデルとなる他大学の教員、モデルとなるカリキュラム開発を行っている大学および教員等とする。

2. 研究目的・方法

調査 1

目的 :

より魅力ある看護学専攻となるように、本大学院看護学専攻(修士)への要望と進学への意識調査を行い、本学がおかれている現状を理解し、今後の魅力ある大学院教育の改革に活かす。

方法 :

①調査対象者 :

本学の卒業生・修了者約 800 名、臨地実習病院や大学近隣の病院約 20 施設 400 名を対象とする。

②調査施設 : 臨地実習病院や大学近隣の病院約 20 施設。

③調査内容 : 調査内容として、年齢・性別・職種などの医療職としての個人的情報、大学院に進学したいかどうかまた、何に期待するのかなど、大学院進学についての問題、サポートについてなど。

④調査方法 :

本学の卒業生・修了生の場合（約 800 名）は事務局にて連絡先を確認し郵送法に調査である。また、臨地実習病院や近隣の病院には、看護管理者（看護局長・看護部長等）を通して研究協力者（約 200 名）にアンケートを配布していただき、看護部等での留め置きとしていただく。アンケートの依頼文には、研究の目的、方法、倫理的配慮について文章化し、同意を得る。その際、研究協力には自由意思を尊重し、強制的な依頼にならないように配慮する。

⑤研究対象者の同意手続き

質問紙の冒頭に、研究目的、調査内容、倫理的配慮を記載し、質問紙の記載・提出をもって調査に同意を得たと判断する。

⑥調査票の配布・回収

本学の卒業生・修了生については、郵送で配布・回収を行う。実習病院や近隣の病院には、看護管理者（看護局長・看護部長等）を通して研究協力者にアンケートを配布していただき、郵送にて返信を依頼する。その際強制的回収にならないようにあらかじめポスターにより主旨を掲示し、看護管理部・看護職員に提示する。所要時間は、質問紙に記載する時間として、15～20分程度である。

調査2

目的

国内外におけるモデルとなる大学および関連施設にて、地域を大学院カリキュラムについて情報収集及び面接調査を行う。

方法

1 研究協力者の募集方法は、研究者間のネットワークにより、当該の情報提供者をピックアップする。合計10名程度とする。詳細は下記である。

- ①電話やメール等で研究の主旨を伝え依頼の打診を行う。関連資料（依頼書：研究目的、調査内容、倫理的配慮を記載）については郵送またはメール添付にて理解していただく。
- ②研究対象者の同意手続き。
- ③研究承諾書にて、研究依頼の承諾をいただき、同意を得たと判断する。
- ④研究協力者には、謝金（クオカード等）をお支払する。
- ⑤面接場所は、協力者の都合に合わせて相談し決定する。

2 研究手法

- ① 半構造化面接法により、個人インタビューを実施する。インタビューに際しては、承諾を得ることができれば、音声を録音する。カリキュラムの開発に必要な要素を明らかにする。
- ② 所要時間（研究協力者が研究のために費やす所要時間）個人インタビュー：約40分間程度。
- ③インタビューの枠組み

大学院修士課程の看護高度実践に関する概要、カリキュラム開発の経緯、実際の運用上の利点や欠点、今後の課題について尋ねる。

3 分析方法

記録から一文一義の文章を抽出しデータ化する。データの意味内容の共通性に基づいて質的帰納的方法によりカテゴリ化し、カリキュラム開発に含まれる因子を導出する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

アンケート・面接調査以外にはなし。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究代表者：問合わせ：茨城県立医療大学保健医療学部看護学科 加納尚美

電話：029-840-2181 e-mail kanou@ipu.ac.jp

研究責任者：茨城県立医療大学保健医療学部看護学科 加納尚美